

## 城西人文研究 既刊総目次

## 創刊号 (1973年)

|                         |      |
|-------------------------|------|
| 序                       | 武市春男 |
| 『城西人文研究』の創刊に際して         | 蒔田栄一 |
| ニーチェとキリスト教倫理            | 木阪昌知 |
| マヤの石造建築における「持送りアーチ」について | 貞末堯司 |
| 意味と認識                   |      |
| ——パース研究(4)——            | 西勝忠男 |
| シーハラヴァットパカラナ訳註(Ⅱ)       |      |
| ——第1章 第3・4・5話——         | 森祖道  |
| 独白と対話                   |      |
| ——ジョイスとベローの距離——         | 茂呂公一 |
| ポーにおけるグロテスクとアラベスク       | 水田宗子 |
| 内村鑑三おぼえ書き(その八)          | 岩谷元輝 |
| 人間の社会的構造と疎外             | 松浦孝作 |
| 『靈魂の系図』について             |      |
| ——Carlyleを中心として——       | 松田福松 |
| カフカの世界                  |      |
| ——非ユダヤ的ユダヤ人——           | 山口勲  |

## 第2号——蒔田栄一教授追悼論文集——(1974年)

|                           |      |
|---------------------------|------|
| 巻頭言                       | 武市春男 |
| バスク語の単文における語順の文体的価値について   | 堀田郷弘 |
| 内村鑑三おぼえ書(その九)             | 岩谷元輝 |
| 精神病理学的立場からみたニーチェ思想の枠構造(1) | 木阪昌知 |
| 『サムラー氏の惑星』試論              | 森哲夫  |
| 「キリスト者貴族に与う」にみられるルターの思想考  | 太田広  |
| 宗教史にみる日本的均衡のメカニズム(Ⅳ)      |      |
| ——マーケティングと宗教の関連において——     | 渡辺好章 |
| 遠近法と身体性について               | 山口勲  |

|                           |         |
|---------------------------|---------|
| 同一性（アイデンティティ）に関する諸問題——その一 | 帆 足 喜与子 |
| 涼袋稿『風雅艶談』浮舟部——翻刻——        | 黄 色 瑞 華 |
| 「紙」以前の書写の用材について——         | 井 口 大 介 |
| 故蒔田栄一教授 追悼                | 松 田 福 松 |
| ああ蒔田栄一先生よ                 | 伊 部 政 一 |

### 第3号——城西大学開学十周年記念論文集——（1975年）

|   |         |
|---|---------|
| アンデス古代文明の諸問題  | 貞 松 堯 司 |
| 発見の哲学——パース研究(6)——   | 西 勝 忠 男 |
| 首都圏の都市成長前線帯におけるサービス業地域の形成   |         |
| ——埼玉県坂戸町「きどうち」と「駅東通り」の比較——  | 田 村 正 夫 |
| 鉄齋と華山   | 小 野 浩   |
| 日本民主主義研究序論  | 森 田 昌 幸 |
| 遠近法と身体性——その哲学的意味——  | 山 口 勲   |
| Feminine Failure and the Modern Hero: Mad Women<br>in Sylvia Plath's <i>The Bell Jar</i> and Joan Didion's<br><i>Play It As It Lays</i> | 水 田 宗 子 |
| 『おらが春』の素材   | 黄 色 瑞 華 |
| 日本におけるアンドレ・マルロー受容   |         |
| ——1941年（昭16）まで——  | 堀 田 郷 弘 |
| ジェイムズ・ジョイス研究——造形への意識——  | 茂 呂 公 一 |
| 作品とその批評   |         |
| —— <i>Robert Elsmere</i> と “Robert Elsmere” ——  | 萩 原 博 子 |
| 司馬遷論  | 黒 羽 英 男 |
| 三代日本主義の系譜について   | 松 田 福 松 |

### 第4号（1977年）

|                        |         |
|------------------------|---------|
| 論理の自律性について——パース研究(7)—— | 西 勝 忠 男 |
| カントの「定言命法」             | 山 口 勲   |
| 中央アメリカの考古学史            |         |
| ——先コロンブス期文化の研究を中心とした—— | 貞 末 堯 司 |
| クレアラ・アン・ペイター覚え書        | 萩 原 博 子 |

## 『教育者としてのショーペンハウアー』から

|                         |      |
|-------------------------|------|
| ——ニーチェと自然——             | 河内信弘 |
| アンドレ・マルローと日本行動主義文学運動    | 堀田郷弘 |
| アンドレ・ジッドの方法（Ⅱ）——生命の美学—— | 陶山 暎 |
| 冷たき牧歌                   |      |
| ——キーツの『ギリシャの壺の賦』によせて——  | 永井豊実 |
| 『おらが春』の素材（続）            | 黄色瑞華 |
| 歌人「安江不空」                | 小野 浩 |

## 第5号（1978年）

|                                   |      |
|-----------------------------------|------|
| 南アメリカの考古学史                        | 貞末堯司 |
| Manorathapūrani 源泉資料年代論           | 森 祖道 |
| 大学英語教育の問題点（上）                     | 鮫島久男 |
| クレアラ・アン・ペイター覚え書（Ⅱ）                | 萩原博子 |
| 『シンベリン』皮肉な遊戯                      | 戸所宏之 |
| カフカ研究の視座を求めて                      | 山口 勲 |
| 東京日仏会館開館式におけるマルロー氏の演説（1960年2月22日） |      |
| と東京羽田空港におけるインタビュー（2月29日）          | 堀田郷弘 |
| アンドレ・ジッドの方法（Ⅲ）                    | 陶山 暎 |
| ニーチェと自然（一）                        | 河内信弘 |
| 『おらが春』第一話の設定をめぐって                 | 黄色瑞華 |

## 第6号（1979年）

|   |                 |
|---|-----------------|
| ヴィトゲンシュタインの思想を理解するために                                     | 山口 勲            |
| パーソナリティテストとしてのSCTに関する一考察                                  |                 |
| ——特に応用とその解釈をめぐって——  | 駒崎 勉            |
| ジェイムズ・ジョイスの手法について（Ⅰ）                                      |                 |
| ——我国におけるジョイス評価の推移——                                       | 茂呂公一            |
| A Textual History of Walter Pater's<br><i>Renaissance</i> | Hiroko Hagiwara |
| マクベスの意識構造——「運命」「眠り」「時」——                                  | 小野 昌            |
| ニーチェと自然（二）——『悲劇の誕生』——                                     | 河内信弘            |
| 全集本『おらが春』について   | 黄色瑞華            |

## 第7号 (1980年)

ヤスパースとフッサール

——精神病理学の哲学的基礎—— .....山 口 勲

PANTUN——puisi dan puisi rupa—— .....黄 色 瑞 華

国際水利法に関する一考察 .....土 屋 生

ジェイムズ・ジョイスの手法について (II)

——我国におけるジョイス評価の推移—— .....茂 呂 公 一

The Development of the Audiolingual Approach

——Trends in Language Methodology in the United States——

.....Fumiko Tamura

『空騒ぎ』の冥と光——偽りの力学—— .....戸 所 宏 之

「エンディミオン」における映像のあり方 .....永 井 豊 実

『ヴェニス商人』における Venture について .....小 野 昌

カミュとニーチェ——『異邦人』と〈神の死〉—— .....村 岡 正 明

アンドレ・ジッドの方法 (IV)——生命の美学—— .....陶 山 曠

「騎士と死神と悪魔」

——『悲劇の誕生』におけるデューラーの銅版画をめぐって——

.....河 内 信 弘

## 第8号 (1981年)

ヴィトゲンシュタインのケムブリッジ .....山 口 勲

アメリカ文化論 (I) .....小松 光・金勝 久・茂呂公一・黒沢順三

シャルル・モーロンの「精神批評」(1) .....越坂部 則 道

「高き山々の頂きから」

——『善悪の彼岸』に添えられた詩に関する一つの試み—— .....河 内 信 弘

思想家としてのニーチェ .....小 野 浩

『四山藁』の俳論 .....黄 色 瑞 華

## 第9号 (1982年)

アメリカ文化論 (II) .....金 勝 久

ジョイスのパドバ・エッセイについて .....茂 呂 公 一

アンドレ・マルローの最初の美術論

《*La Peinture de Galanis*》(1922) について

- マルローの初期の美術論の研究(前)—— ……………堀 田 郷 弘  
 シャルル・モーロンの「精神批評」(2)……………越坂部 則 道  
 教育場面における夢の活用(Ⅰ)  
 ——その背景としてのフロイトとユング—— ……………細 部 国 明  
 身・語・意の三業(tīni kammāni)と carita, saṅkhāra,  
 samācāra ……………池 田 練太郎  
 詩的コスモゴニーへの論理  
 ——ランボー詩の内的世界—— ……………川那部 保 明  
 ハイデガー先生の想ひ出……………小 野 浩  
 [研究ノート]  
 俳諧連歌における謡曲の文句取り(一)……………黄 色 瑞 華

## 第10号(1983年)

ヴィトゲンシュタイン：太洋の測量技師

- 逆限定のパトス—— ……………山 口 勲  
 アメリカ文化論(Ⅲ)……………金 勝 久  
 ジョイスのディケンズ・エッセイについて……………茂 呂 公 一  
 教育場面における夢の活用(Ⅱ)  
 ——夢と宗教—— ……………細 部 国 明

Zur Entwicklung der deutschen Sprache

- in der DDR ……………Kuniomi Uchimura  
 『失われた時を求めて』における作中人物の出現と  
 話者のまなざし……………北川原 哲 夫  
 カミュと〈他者〉……………村 岡 正 明  
 [書 評]

(Ⅰ) LE DASAVATTHUPPAKARANA

Édité et traduit par Jacqueline VER EECKE

(Ⅱ) LE SĪHALAVATTHUPPAKARANA

Texte pâli et traduction par Jacqueline VER EECKE

……………森 祖 道

〔研究ノート〕

渭浜庵執筆一茶……………黄色瑞華

## 第11号(1984年)

〈人間=記号〉論について……………西勝忠男

教育場面における夢の活用(Ⅲ)

——ユングの宗教夢解釈に対するフロムの批判——……………細部国明

Erühneuhochdeutsch und Buchdruckerkunst—Ⅲ.

Die Herausbildung der (verbalen) Satzklammer……………藤井明彦

Didaktische Probleme des Geschichtsunterrichts in den

sozialistischen Ländern am Beispiel der UdSSR……………Stefan Wundt

知と自我

——初期シェリング哲学の原理について——……………小林保則

歌人 安江不空……………小野浩

『我春集』の序文をめぐる……………黄色瑞華

## 第12号(1985年)

ロンゴバルディ侵住建国をめぐる諸問題

——イタリア民族形成史の一コマ——……………森田鉄郎

教育場面における夢の活用(Ⅳ)

——ユングの宗教夢解釈に対するポスの批判——……………細部国明

ベン・ジョンソンの男性的雄弁の美学

——*Timber*の詩論を通じてジョンソンの詩を読む——……………平松哲司

Die Kommunistische Erziehung und ihre

Wertvorstellungen……………Stefan Wundt

シャルル・モーロンの「精神批評」(3)……………越坂部則道

『我春集』から『株番』へ……………黄色瑞華

〔研究ノート〕

農村集落における精神的ムラ境の諸相

——茨城県桜村における虫送りと道切りを事例として——……………小口千明

ヴァイマル憲法制定国民議会における裁判官の審査権

——「ヴァイマル憲法下の裁判官の審査権」研究序説——……………畑尻剛

グスターフ・フライタークの〈Soll und Haben〉……………鈴木敏夫

## 第13号(1986年)

- 巻頭言……………石 南 國
- “鏡”の論理から“魂”の論理へ  
——人間記号論序説——……………西 勝 忠 男
- 北欧中世(スエーデン)における自力救済慣行  
——実力社会の一考察——……………伏 島 正 義
- 潮湯の偏在性に関する地理学的予察  
——日本における海水浴普及との関連から——……………小 口 千 明
- ジョイスの“Exiles”における受難の思想について……………茂 呂 公 一
- Eloisa と Belinda の相違……………石 川 郁 二
- 状態動詞・完了形・進行形・状態受動態に  
見られる共通特性……………鎌 田 精三郎
- R. Huch の〈スイスの春〉覚え書  
——研究ノート——……………鈴 木 敏 夫
- J. ヴァイスヴァイラーの Seele の語源説をめぐって……………藤 井 明 彦
- ヴァージニア・ウルフ『燈台へ』における視点と  
人物描写について……………飯 塚 英 一
- エアリエルの材源再考……………門 野 泉
- パトナム, シドニーの *sprezzatura* 精神  
——宮廷世界の美学と「ルネサンス・ヒューマニズム」の対峙——  
……………平 松 哲 司
- The Dimensions of the U. S. —Japanese  
Cultural Conflicts Underlying the Trade Issue……………古 川 友 章
- 神話概念の変遷Ⅱ  
——翻訳語としての『神話』をめぐって(上)——……………天 沼 春 樹
- 自己言及のかたち  
——『イリュミナション』「生活Ⅲ」と「生活Ⅰ」を読む—— ……新 宅 巖
- フロベールにおける登場人物と場面……………大久保 政 憲
- 『息子』  
——翻 訳——……………アルトゥール・シュニッツラー  
春 日 正 男
- 『バシュラールと過したひと夏』とその研究Ⅰ……………越坂部 則 道
- アンドレ・ジッドの方法(VI)……………陶 山 曠

アンドレ・マルロー「ルオーの新作についての覚書——

- 絵画における悲劇的表現をめぐって」の翻訳と解題……………堀 田 郷 弘  
「シルス・マリーア」をめぐって……………河 内 信 弘  
日中戦争開戦当初における対植民地・「満州」米政策……………大豆生田 稔  
歌人 安江不空・序(3)  
——大和歌の問題——……………小 野 浩  
『志多良』の序文をめぐって……………黄 色 瑞 華  
高橋克巳論——虚無僧のパトス——……………山 口 勲

### 第 14 号 (1987 年)

- Mahāsivatthera as Seen in the Pāli Aṭṭhakathās……………Sodō Mori  
キーツの『秋に寄せて』(二)  
——第 2 連の情景——……………永 井 豊 実  
坪内逍遙とシェイクスピア  
——帝劇『ハムレット』をめぐって——……………小 野 昌  
TENSE and TIME in English……………Seizaburo Kamata  
コシンスキーの『自己芸術』: *Steps* をめぐって……………繁 田 眞 弓  
Kajii Motojiros “Fliegen im Winter”……………Stefan Wundt  
E. T. A. ホフマン『さびれた家』  
——作話技術を中心に——……………齊 藤 洋  
バルザックの小説の提示部について……………佐 野 栄 一  
〔研究ノート〕  
ニーチェにおける詩人  
——ニーチェの詩の理解のために——……………河 内 信 弘  
〔研究ノート〕  
井泉水編『一茶俳句集』入集の句(一)……………黄 色 瑞 華  
イエイツの「一エーカーの草地」について  
——〈悟り〉か〈狂気〉か——……………小 堀 隆 司  
アポリネールの恋の詩と真実……………堀 田 郷 弘

### 第 15 卷 第 1 号 (1987 年)

- 推論の妥当性から〈魂〉の論理性へ……………西 勝 忠 男



“Elegy to the Memory of an Unfortunate

Lady” と “Eloisa to Abelard” ……………石川郁二

*Faerie Queene*, Book I における「光」と「闇」……………古川啓二

[研究ノート]

井泉水編『一茶俳句集』入集の句(二)……………黄色瑞華

「松のひゞき波をしらぶ」考……………安保博史

イエイツ「マイケル・ロバーツの二重の幻想」について

——幻滅の狡智——……………小堀隆司

### 第15巻 第2号 (1987年)

A Study of the *Sihalavathuppakarana* ……………Sodō Mori

The Acquisition of English and the Learner's Attitude

——Motivation vs. Ego Boundary——……………Fumiko Tamura

James Joyce の “Exiles” と芥川龍之介の

『藪の中』との類縁性(1)

——人物像を中心にして——……………茂呂公一

結婚で終わらない喜劇, *Love's Labour's Lost* の構造……………小野昌

テオドア・フォンターネ: グスタフ・フライタークの

〈借り方と貸し方〉(試訳)……………鈴木敏夫

ゲーテの『ヴィルヘルム・マイスターの遍歴時代』

におけるマカーリエ神話……………荻野静男

神話概念の変遷 I

——Mythos の語史に関して(上)——……………天沼春樹

ニーチェにおける夕

——詩人としてのニーチェ——……………河内信弘

[研究ノート]

井泉水編『一茶俳句集』の句(三)……………黄色瑞華

### 第16巻 第1号 (1988年)

ジョイスの “Exiles” と芥川龍之介の『藪の中』に

おける卍巴模様の構造と, 真相の曖昧さの

意味について

——ジョイス受容史への加筆の試み——……………茂呂公一

- カミュの「無差異」について……………村岡正明  
 Dostoevskij の小説における思想上の傾向 ……シュテファン・ヴント  
 イェイツ「ビザンチウムへの船出」について  
 ——聖なる彼方の詭計—— ……小堀隆司  
 バシュラールの死をめぐる  
 ——『バシュラールと過したひと夏』とその研究Ⅱ—— ……越坂部 則 道  
 ニーチェにおける第七の孤独……………河内信弘  
 [研究ノート]  
 井泉水編『一茶俳句集』入集の句(四) ……黄色瑞華

### 第16巻 第2号(1988年)

- ワーグナーの楽劇『トリスタンとイゾルデ』  
 ——《死の薬》をめぐる—— ……春日正男  
 『結婚の生理学』におけるバルザックの政治  
 と文学の問題……………佐野栄一  
 イェイツの「塔」について  
 ——反復としての回想—— ……小堀隆司  
 [研究ノート]  
 井泉水編『一茶俳句集』入集の句(五) ……黄色瑞華

### 第17巻 第1号(1989年)

- The Value of the Pāli Commentaries as  
 Research Material ……Sodō Mori  
 Eloisa は幸福を手に入れるか  
 ——*An Essay on Man* を基にして—— ……石川郁二  
 西ベルリンと国際関係  
 ——ドイツ人のベルリン報告—— ……シュテファン・ヴント  
 Zur Erzählstruktur in Kafkas  
 《Von den Gleichnissen》 ……Tetsuo Kotani  
 ディオニュソス酔歌(翻訳) ……河内信弘  
 [研究ノート]  
 井泉水編『一茶俳句集』入集の句(六) ……黄色瑞華  
 会員消息欄

## 第17巻 第2号 (1990年)

- 乳児の発達……………細 部 国 明  
 モーツァルトの『魔笛』  
 ——オペラにおける教養小説—— ……………春日 正 男  
 A Review of Tesl Method ……………John Parsons  
 “詩的に” 考える  
 ——ハイデッガーの作品『思い出』における  
 考えることの本質への問い—— ……………高 島 明  
 イェイツ『鷹の井戸』  
 ——転生のための不可能性—— ……………小 堀 隆 司  
 一人称のバシュラール  
 ——『バシュラールと過したひと夏』とその研究Ⅲ—— ……………越坂部 則 道  
 [研究ノート]  
 井泉水編『一茶俳句集』入集の句 (七) ……………黄 色 瑞 華

## 第18巻 第1号 (1990年)

- 水滴の歌  
 ——T. S. エリオットの声—— ……………佐 藤 亨  
 呪文としての文学  
 ——『アメリカ人の成り立ち』の場合—— ……………三 芳 康 義  
 イェイツ『煉獄』について  
 ——王の呪詛と断念—— ……………小 堀 隆 司  
 アンドレ・ジッドの方法 (Ⅶ)  
 『法王庁の抜け穴』をめぐって (その1) ……………陶 山 暎  
 [研究ノート]  
 井泉水編『一茶俳句集』入集の句 (完) ……………黄 色 瑞 華  
 会員消息欄

## 第18巻 第2号 (1991年)

- The Temple of Fame* における  
 過去, 現在, 未来……………石 川 郁 二  
 中国の古典比喻理論  
 ——日本と西洋との比較を通して—— ……………楊 麗 雅

〔研究ノート〕

幼児期以後の発達……………細 部 国 明

Changing Views of the West's Impact

on China……………J. H. Parsons

ドイツ民主共和国における拒否的教養小説の

影響力……………シュテファン・ヴント  
ワーグナーの『ローエングリン』

——引き裂かれた魂——……………春 日 正 男

〔翻 訳〕

プリンツ・フォーゲルフライの歌

——“Die fröhliche Wissenschaft”にそえられた

ニーチェの詩の翻訳の試み——……………河 内 信 弘

アンドレ・ジッドの方法（Ⅷ）

『法王庁の抜け穴』（その2）

——『鎖を離れたプロメテ』と『パリュード』をめぐって——

……………陶 山 曠

## 第19巻 第1号（1991年）

『恋の骨折り損』の春と冬のかげ合いについて……………小 野 昌

制度化された学校教育の功罪への問い

——I. イリッチ, K. アウリン, E. E. ガイスラーの

学校論を廻って——……………高 島 明

漱石文学の比喩表現におけるイメージ研究

——夢・絵画・幽麗——……………楊 麗 雅

イエイツ「自我と魂の対話」……………小 堀 隆 司

アンドレ・ジッドの方法（Ⅸ）

『インモラリスト』——ソチの観点から……………陶 山 曠

〔翻 訳〕

菊池 寛：蘭学事始……………河内信弘, シュテファン・ヴント(共訳)

〔研究ノート〕

嘉永版『俳諧一茶発句集』全注解(1)……………黄 色 瑞 華

## 第19巻 第2号 (1992年)

- 道化のコンセプト……………小野 昌  
 日本語助詞「は」と「が」  
 ——情報伝達の観点から——……………鎌田 精三郎  
 夏目漱石の比喩論……………楊 麗 雅  
 ガートルード・スタイン：「戯曲」の始まり……………三 芳 康 義  
 [翻 訳]  
 中島 敦：『弟子』……………河内信弘, シュテファン・ヴント(共訳)  
 [研究ノート]  
 嘉永版『俳諧一茶発句集』全注解(2)……………黄 色 瑞 華

## 第20巻 第1号 (1992年)

- リルケとロシア絵画——三つの計画——……………安 家 達 也  
 [研究ノート]  
 教育評価について……………細 部 国 明  
 嘉永版『俳諧一茶発句集』全注解(3)……………黄 色 瑞 華  
 [翻 訳]  
 中島 敦：『弟子(その2)』および『山月記』  
 ………………河内信弘, シュテファン・ヴント(共訳)  
 慰められるクフーリンと黒い塔について  
 ——イェイツ最後の動揺——……………小 堀 隆 司

## 第20巻 第2号 (1993年)

- G. スタインの「メランクサ」  
 ——“Bottom Nature”を求めて……………三 芳 康 義  
 [研究ノート]  
 エーミール・エルマティンガーの  
 「ゴットフリート・ケラーの生涯」(再読)……………鈴 木 敏 夫  
 知能について——知能構造と教育——……………細 部 国 明  
 嘉永版『俳諧一茶発句集』全注解(4)……………黄 色 瑞 華  
 [書 評]  
 「会社主義」と法——紹介=東京大学社会科学研究所編  
 『現代日本社会』(全7巻)——……………述 田 齊

## イエイツ「動揺」について（I）

——〈存在〉から遙か離れて—— ……………小堀隆司

## 第21巻 第1号（1993年）

## アンドレ・ジッドの方法（X）

——『インモラリスト』—ソチの観点から(2)— ……………陶山 暁

シェイクスピアの『リア王』の材源について……………小野 昌

## ワグナーの『さまよえるオランダ人』

——永遠に呪われた者の救済について——……………春日 正 男

〔翻 訳〕

中島 敦：『李陵』……………河内信弘, シュテファン・ヴント(共訳)

〔研究ノート〕

嘉永版『俳諧一茶発句集』全注解(5) ……………黄色 瑞 華

## 第21巻 第2号（1994年）

## アンドレ・ジッドの方法（XI）

——『インモラリスト』—そのマニユスクリを追って——……………鈴木 たけし

## 坪内逍遙と福田恆存

——劇作家とシェイクスピア—— ……………小野 昌

〔研究ノート〕

嘉永版『俳諧一茶発句集』全注解(6) ……………黄色 瑞 華

## 第22巻 第1号（1995年）

## アンドレ・ジッドの方法（XIII）

——『インモラリスト』—そのマニユスクリを追って(3)—……………鈴木 たけし

〔翻 訳〕

中島 敦：『李陵』（その2）……………シュテファン・ヴント, 河内信弘(共訳)

〔研究ノート〕

嘉永版『俳諧一茶発句集』全注解(7) ……………黄色 瑞 華

## 第23・24巻 合併号（1997年）

シェイクスピアの『リア王』のテイトによる改作について ……小野 昌

## Passion と Virtue の構成

|                                      |      |
|--------------------------------------|------|
| —— <i>Eloisa to Abelard</i> —— ..... | 石川郁二 |
| イエイツ「動揺」について（Ⅱ）〈承前〉 .....            | 小堀隆司 |